

岩川光 quena
閑喜弦介 guitar
西嶋徹 contrabass

2023 05月10日 (水)

開場 19:30

開演 20:00

(2ステージ入替無) (1drink=600~)

MC=4000+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



閑喜弦介

3歳で父からギターの手ほどきを受けて以来今日に至るまで、クラシックをはじめジャズや編曲を手がけ、各方面からその卓越したセンスと技術に称賛を浴びている。ギター音楽大賞コンクールをはじめ、日本国内外で数々の受賞を経て、2014年よりパリエコールノルマル音楽院にて研鑽を積み、演奏家ディプロムを満場一致の首席で取得。2018年にはリール高等音楽院にてジュディカエル・ペロワの元でフランス国家演奏家資格を取得。その後、パリ地方音楽院 JAZZ 科を満場一致の首席で卒業。現在は日本に活動の場を移し、引き続き活動の幅を広げている。

岩川光

他の追従を許さぬ圧倒的な演奏技術で「ケーナの革命者」と呼ばれる世界最高峰のケーナ奏者にして、幅広い音楽言語を吸収し、独創的な作品を生み出し続ける作曲家。9歳よりケーナを始め、12歳より演奏活動に入る。10代を通してリコーダー演奏、作曲、指揮法を学ぶ。こうした知見と技術を活かして生み出した独自のケーナ奏法は世界的な話題を呼び、これまでのケーナのイメージを覆す演奏を展開。南米・ヨーロッパを中心に音楽祭出演や数々のツアー公演、ディノ・サルーシ、故ハイメ・トーレスら世界的巨匠との共演、キケ・シネシとのデュオ、古楽アンサンブル「カペラ・メディテラネア」のソリストとして参加したラジオ・フランスでの公演などを通じ、幅広い分野で国際的に高い評価を得る。録音作品も非常に多く、またその内容はバラエティに富み、国内外の専門誌で年間ベストに選出されるなど好評を博す。常に世界規模で複数のプロジェクトを展開。近年テレビや舞台の音楽録音を通じ、日本のお茶の間でもその音を耳にする機会が増えている。現代の作曲家との協働、古代楽器の演奏復元、製作家として新モデルの開発など、その活動は多岐にわたる。また南米を中心にマスタークラスの開講も多い。2013年よりブエノスアイレスに暮らすも、新型コロナウイルス・パンデミックで2020年8月一時帰国。2022年1月には、クラシック演奏家の登竜門として名高い東京オペラシティ主催の名物企画『B→C』にケーナとしては史上初の出演を果たし、各方面より惜しめない賞賛を得た。

西嶋徹

1973年東京生まれ。5才よりヴァイオリン、高校よりエレキベースを始め、大学卒業後にコントラバスを始める。ジャズやアルゼンチンタンゴを軸に幅広い分野で活動。現在、Cuatrocientos、三枝伸太郎 Orquesta de la Esperanza、鬼怒無月 Quinteto、吉田篤貴 EMOstrings、などのグループに参加。これまでに、葉加瀬太郎、綾戸智恵、小野リサ、小松亮太、Jazztronik、Pablo Ziegler 等多くのアーティストのコンサートやレコーディングに参加。2014年にピアニスト林正樹との2枚目となる DUO アルバム「El retratador」をリリース。2018年、ソロアルバム「Phenomenology」をリリース。2021年、ギター藤本一馬、ピアノ栗林すみれ、ドラム福盛進也とのグループ Remboato にてアルバム「星を漕ぐもの」リリース。